

～アートな子どもの世界～

子どもたちはおもしろい発想や表現を思いおもいに楽しんでいます。アートな世界をのぞいてみませんか？

<砂場 de アート>



一人ひとりのお友だちが砂場のお山にスコップをさして遊んでいると…周りにいたお友だちも「楽しそう」遊んでいるうちにカラフルなお山ができました。



<いっしょ いっしょ>



いっぱいならべる1歳児くん。「いっしょいっしょ」と手をばちばちたいて嬉しそうです。



<とんとんつながる>



お友だちや先生と一緒にとんとんキャップをつなげていきます！まだまだつながる、楽しいね！



令和4年度 10月の園だより



みみょう保育園

「非認知能力を高める保育への取組み」

先日は、保育者がコロナ感染症の陽性者となり、保護者の皆様にはいろいろとご心配をおかけし申し訳ありませんでした。おかげさまで、感染拡大することなく、子どもたちも元気に登園して来ております。引き続き、感染予防に配慮してまいりますのでご協力をお願いします。さて、みみょうグループでは、令和4年度の運営方針のひとつとして、令和3年度に引き続き、「コロナと共存しながら、子どもたちの非認知能力を育てよう」というテーマを掲げています。そのねらいは、「指示がなくても、何をしたらよいか分かる子」を育みたいということです。

「非認知能力」はあまり聞きなれない言葉であるかと思いますが、これからの幼児教育のキーワードとなる言葉です。その意味は、「目に見える何かができるようになる」、または読み書き計算など「IQ」などで数値化される心の力である「認知能力」とは違い、「非認知能力」とは、①自分を大切に目に見えにくい学びに向かう力、自分を高めようとする力、②周りの人と上手にかかわっていく力、③自分の感情を上手くコントロールする力など、認知能力以外の心の力のことを指します。「非認知能力」と「認知能力」は、どちらも大切に、互いに絡み合うように一体となって伸ばすことが大切となります。これらが身につくことで、「生きるために必要な力」へとつながっていくのです。

その前提となるのが、0歳からの丁寧で応答的なかわりです。応答的なかわりとは、表現のまだ十分でない乳幼児に対し、その子の表情や行動を観察し、その思いを読み取り、何気ないしぐさやつぶやきも大切にしながら、一つひとつを丁寧に受け止め、それに対し応答的に応えることを重視するという姿勢です。

みみょうでは、赤ちゃんが泣いていたなら「どうしたのかな？」「お腹すいたかな？」「おしりが気持ち悪いかな？」「それとも抱っこしてほしいのかな？」などと語りかけながら、その子の表情やしぐさを観察し、表情やしぐさからその訴えを読み取り、応えてあげるようにしています。応える場合にも、「そうか、お尻が気持ち悪かったんだね。すぐに取り換えるからね」と目を見て、微笑みながら、赤ちゃんの思いを受容（受け止めながら）オムツ交換するようにしています。その毎日の繰り返しが、自分は愛されているという安心感、そして自らの価値や存在意義を肯定できる感情である「自己肯定感」が育まれ、やってみたいという「意欲」や「探求心」の芽生えにつながり、やがて様々な事象に興味・関心を持つようになります。その一連の流れが「非認知能力」のベースになっていくのです。

みみょうの大きな特色は、小さな乳児保育園ならではの少人数保育です。より丁寧で応答的保育を実践することで、「非認知能力」、言い換えれば「生きるために必要な力」を高め、「指示がなくても、何をしたらよいか分かるわかる子」を育ててまいりたいと思います。

引き続き、みみょうの保育の営みをあたたかく見守っていただければと幸いに存じます。

みみょう保育園 園長



子育て応援コラム

ゆれながら
前へ進まず
子育ては
お前がくれた
木馬の時間

歌人 俵 万智
歌集「プーさんの鼻」より



子育ては、うまくいくことばかりではないですね。もううまくいかない時も子どもはちゃんと育っているのです。秋の夜長、少しの時間、絵本の読み聞かせを通じて親子の触れ合いの時間を持ってみませんか？きっとほわか心が温まり落ち着くことでしょう。

東雲みみょうフェスティバル

日時：10月15日（土）
9：00～14：30頃
場所：第二みみょうこども園
（詳しい内容は別紙にてお知らせします）



お知らせ

令和4年度の現況届に係る関係書類を配布いたします。受取期間や受付場所など、お間違いのないようお願いいたします。

消さないで

あなたの心の

注意の火

広島市南消防署

警防課 救助係

